

しゃらくかい 写真俳句会

令和8年 秋の号 [vol.101]
(9・10月)

<https://3ban.nobody.jp/pc/syaraku/syaraku.html>

投稿先; kinuko_thompson@hotmail.com

© 2026 Sharakukai



秋 (9・10月) イメージ: コスモス

写真俳句の部

(掲載ランダム)



散策の帰路は足早初あらし

散策の帰路は足早初あらし

(季語: 初あらし=秋)

水澄



十六夜や
ためらいがちに
顔を出し

十六夜^{いざよい}やためらいがちに顔を出し

(季語: 十六夜=秋)

準坊



球打てば
ニドムの森に
怒る熊

球打てばニドムの森に怒る熊

(季語: 熊=冬)

iSAMU



終奏が夜の帳に^{とぼり}
秋沁みて

終奏が夜の帳^{とぼり}に秋沁みて

(季語: 秋沁みて=秋)

池福楼



道行けば
色なき風に想いをり

道行けば色なき風に想いをり

(季語：色なき風=秋)

陽閑



清流に色を散りばめ山粧ふ

やまよそほ
清流に色を散りばめ山粧ふ

(季語：山粧ふ=秋)

久芽



路地裏の空き家の塀に紺朝顔

路地裏の空き家の塀に紺朝顔

(季語：朝顔=秋)

昼寝覚



秋うらら
貸出し期限ない文庫

秋うらら貸出し期限ない文庫

(季語：秋うらら=秋)

福来雀



待ち侘びし返信届く今朝の秋 準坊 (季語：今朝の秋=秋)

朝顔や蔓^{つる}からませて木戸開かず 久芽 (季語：朝顔=秋)

ドロの中ひざ小僧出し落し水 水澄 (季語：落し水=秋)

城跡の鄙びた茶店そばの味 昼寝覚 (季語：そばの味=秋)

秋麗^{あきうら}集まる人や口ずさみ 陽閑 (季語：秋麗=秋)

豪雨禍に生きる術^{すべ}問ふ虫時雨 池福楼 (季語：虫時雨=秋)

写真持ち二人同行秋遍路 マム (季語：秋遍路=秋)

(イナゴと呼んでいた親友が他界した)
蝗^{いなご}跳ぶ天へ跳ばずもよいものを 福来雀 (季語：蝗=秋)

季語解説 初あらし^(はつあらし) = 秋の初風 秋の初めの強い風のことで、台風期のさきぶれのように荒々しく吹く。秋の初風は、秋の到来を思わせる風。【秋】

十六夜^(いざよい) = 旧暦八月十六日の夜、およびその夜の月をいう。満月よりも出が少し遅れる(約50分程)ので、ためらう意の「いざよふ」からついた名。【秋】

今朝の秋^(けさのあき) = 立秋・秋立つ 二十四節気の一つで、新暦八月七日ごろにあたる。暦の上ではこの日から秋に入るが、実際にはまだ暑さが厳しい。しかし朝夕などは、秋の気配がどことなく感じられる。【秋】

色なき風^(いろなきかぜ) = 秋の訪れを告げる「秋の初風」から、晩秋の蕭条とした風まで、秋の風にはしみじみとした趣がある。秋風は古来西風とされてきたが、特に定まった方角はない。色なき風は華やかな色がない風の意で、漢語「素風」を歌語にしたもの。【秋】

山粧^(やまよそほふ)ふ = 秋の山が紅葉で彩られるさまをいう。北宋の画家郭熙の『林泉高致』の一節の「秋山明浄にして粧ふが如し」から季語になった。【秋】

落し水^(おとしみず) = 稲刈りが近づく、田水は不要になるので、畦の水口を切って水を落とし、田を乾かして刈り入れに備える。音を立てて流れていく水を落し水という。【秋】

福朱雀

ショーウィンドウ見るな映るとギョツとする [おのれの姿は心臓に悪い]

池福楼

若者が使う「界限」なにか変 [年寄りには通じない]

親ガチャを嘆く自分も親になり [親ガチャ妻ガチャ夫ガチャ]

陽閑

人減らしセルフレジには監視人 [監視人の眼が怖い]

セール服ダイエット要で2倍得 [そんなに上手くいくかな～？]

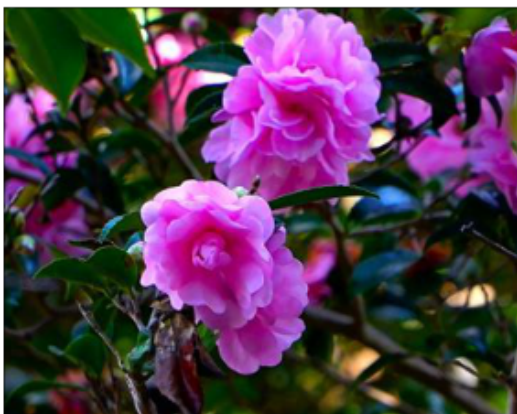
準坊

戦争を未だ止めずに地球危機 [大気汚染・大旱魃・大洪水・他多々]

昼寝覚

秋の雨日本列島水浸し [最近の天候は極端ですね・・・]

営みの全てを流す土石流 [悲惨な映像が世界を駆け巡る]



山茶花 イメージ写真

- 次回の冬号(11・12月)も写真俳句・俳句の部ともに兼題は無く冬に相応しい季語をお選びいただき自由に発想を広げて作句をお願いします。締め切りは令和8年11月20日です。
- 写楽句会にご意見、ご希望等ございましたらお知らせください。
- 下記のiSAMUさんのホームページから「写楽句会」をクリックして頂くと写楽句会のバックナンバーが閲覧できます。

<https://3ban.nobody.jp/pc/syaraku/syaraku.html>

写楽句会 連絡先 : kinuko_thompson@hotmail.com

© 2026 Sharakukai